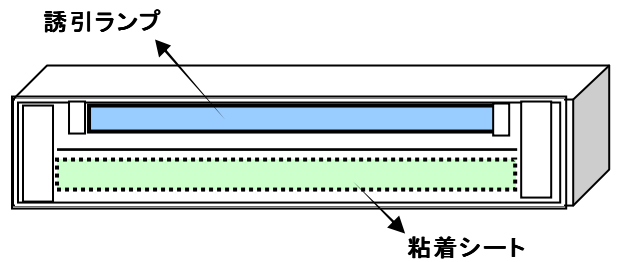


従来型捕虫器の問題点

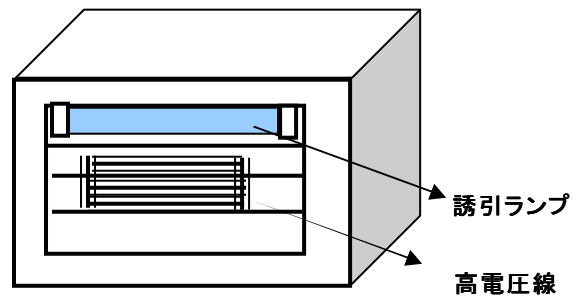
＜粘着剤で粘着捕獲する方法について＞

1. 粘着シートの交換が必要である。
2. 大きい昆虫や羽に鱗粉(りんぷん)のある昆虫は逃亡しやすく、また、重力により粘着面より落下し装置を汚す。
(特に周囲温度が高い夏はこの傾向が強い)
3. 粘着面積により捕獲数が限定される。
4. 粉塵などにより粘着力が低下する。
5. 捕獲された昆虫は生きており印象が良くない。
6. 獲された昆虫の腐敗も考えられ非衛生的。



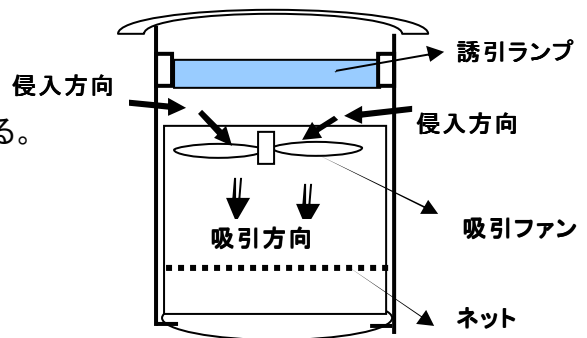
＜高電圧線で電殺捕獲する方法について＞

1. 虫体が飛び散り周辺を汚すことがある。
2. 虫が高電圧線に接触したときの音が不快である。
3. 高電圧線に付着した死骸の定期清掃が必要である。
4. 高電圧なので安全上設置場所が制限される。
5. 集積した虫の死骸に再度虫が発生することもある。
6. 捕獲された昆虫の腐敗も考えられ非衛生的。
7. 虫の同定ができてにくい。



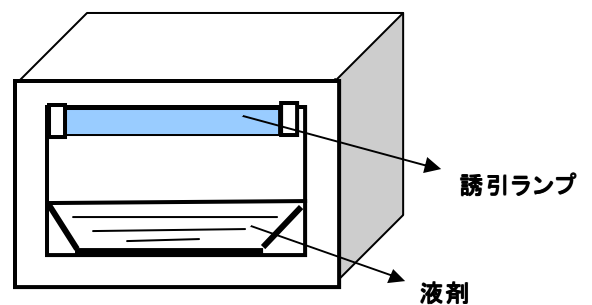
＜吸引ファンで吸引捕獲する方法について＞

1. 生きたまま捕獲されているので印象が良くない。
2. 室内がファンから排気される空気に汚染される懸念がある。
3. 吸引音が不快である。
4. 構造が複雑となる。



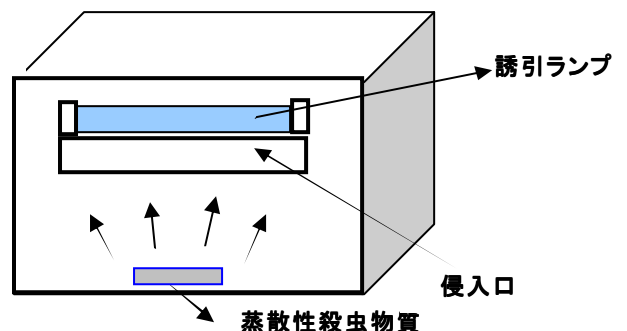
＜液剤で捕獲する方法について＞

1. 蒸発による液剤の補充が必要である。
2. 液剤中にある虫の死骸の不快感および腐敗による不衛生感がある。
3. 液剤の定期取替えとこぼれ落ちた場合の清掃が面倒である。



＜殺虫性物質の蒸散で致死捕獲する方法について＞

1. 人体に対する安全性や臭いによる不快感の問題がある。
2. 蒸散した物質は拡散しやすく逃げやすいため侵入口を大きくできず、侵入口を小さくすると昆虫が侵入し難くなる。
3. 殺虫物質は一般的に昆虫が忌避しやすい。



温熱捕虫器と従来型捕虫器の比較

- (1) 捕獲容器内に60℃以上の高温乾燥状態で捕獲されるので装置が汚れず清潔です。
(粘着式では捕獲された虫が落下あるいは逃亡するするなどして装置が汚れてくる。
電殺式では中体が飛散ったり装置に付着したりする。)

粘着面捕虫器による捕獲状況



大型ハエなど大きい昆虫やコガネムシなど重い甲虫、蛾など羽の鱗粉で付きにくい昆虫の場合は昆虫が粘着面よりズレ落ちたり、逃げたりして装置を汚す。

- (2) 捕獲された虫は60℃以上で乾燥保存されるため衛生的です。
(従来式では湿度の高い時などは捕獲された虫にカビなども発生する。)
- (3) 装置が温かいため昆虫の誘引源となります。
(粘着式や電殺式では捕獲部分は常温で温かくない。)
- (4) 光に集まる小さな昆虫から大きな昆虫まで捕獲することができます。
(粘着式や電殺式では大きな虫は捕獲しにくく、特に羽に鱗粉のある蛾などは捕獲しにくい。)
- (5) 捕獲された虫は外から見えないので不快な印象を与えません。
(電殺式では電殺部に虫が付着していたり、粘着式では虫が活着していることも有り不快である。)
- (6) 殺虫性のある化学物質などを使用しないため安全です。
(殺虫や忌避作用の薬剤を使用する装置もあり、電殺式では高電圧による危険性に考慮が必要。)
- (7) 虫の回収やメンテナンスが簡単です。
(粘着式では粘着紙の取扱いに注意が必要。
電殺式では電殺部に付着した虫の除去清掃が必要。)
- (8) 粘着シートや薬剤の交換が無く使いやすい。
(粘着式では粘着シートの交換が必要。特に、虫やホコリの多い環境では交換回数を多くすることが必要。薬剤蒸散式では薬剤の交換が必要。)
- (9) 縦長で壁掛け、床置き of いずれも可能で場所を取らず、設備設計に組み込みやすい。
(現状のものは横長で場所を取り、床置きがしにくい。)
- (10) 誘引ランプは垂直で光は放射状に左右に広がり、広い範囲をカバーできます。
(現状のものはランプを水平に置くものが多く光の左右の広がりが制限される。)
- (11) 虫は乾燥した状態で捕獲されるため同定も可能で、写真撮影、長期保存もできます。
(粘着式では捕獲された虫が同定のために被せたラップシートの下で粘着剤に埋もれたような状態になり立体的観察ができない。電殺式では虫体が飛散するため同定は難しい。)